

令和5年度
教育課程特例校における特別の教育課程
【実施状況報告】

池田市立秦野小学校

1. 概要

池田市では平成16年3月に構造改革特別区域計画の認定を受け、「教育のまち池田」特区に取り組んできました。市立小学校全学年に「英語活動」を教科として導入（全学年 年間35時間）し、平成18年度より全小学校で実施してきました。

平成20年7月より「構造改革特別区域研究開発学校」規制の特例措置が全国展開されたことにより、本市の特区認定は取り消され、文部科学省の「教育課程特例校」指定に移行し、これまでの特区内容の教育課程を継続実施しています。

平成25年度に「教育課程特例校」の実施期間の終了を迎えましたが、平成26年度以降も継続を申請し、1～4年生における「英語活動」の授業を実施しました。

新学習指導要領への移行に伴い、「英語活動」は引き続き1・2年生で実施し、幼稚園、小・中・義務教育学校での継続的な英語学習をすすめています。

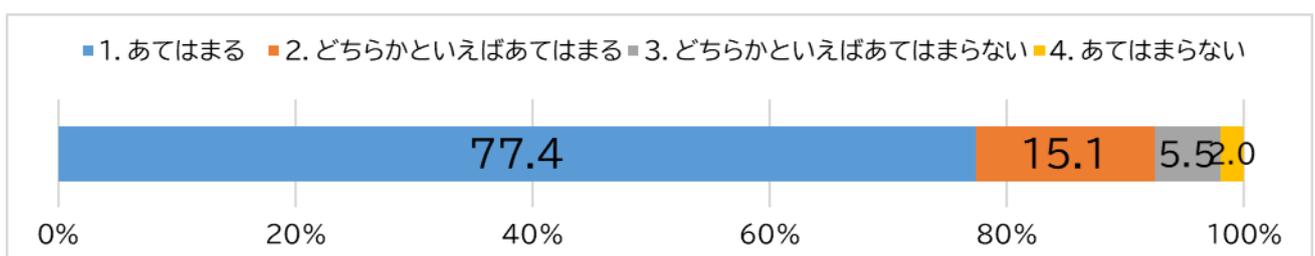
この1・2年生の「英語活動」は生活科の時間を活用して年間15時間実施しています。内容としては主に英語のリズムや音に慣れ親しむ活動を重点にし、挨拶や動作、身の回りのものを表す単語を題材にした活動を取り入れています。早期の段階から英語に触れることで、ことばや文化に対する関心を高め、正しく理解し、国際社会で生きる力を育成することをねらいとしています。中学年からの外国語活動、高学年からの外国語科への学びの連続性を意識して指導にあたっています。

本校では、教育課程特例校として、小学校第1・2学年に「英語活動」を設置する特別の教育課程を編成しています。低学年では主に英語のリズムや音に慣れ親しむ活動を重点にし、あいさつや動作、身の回りのものを表す単語を題材にした活動を取り入れています。中学年からの外国語活動、中学校の英語科への学びの連続性を意識して指導にあたっています。

2. 児童アンケートの結果

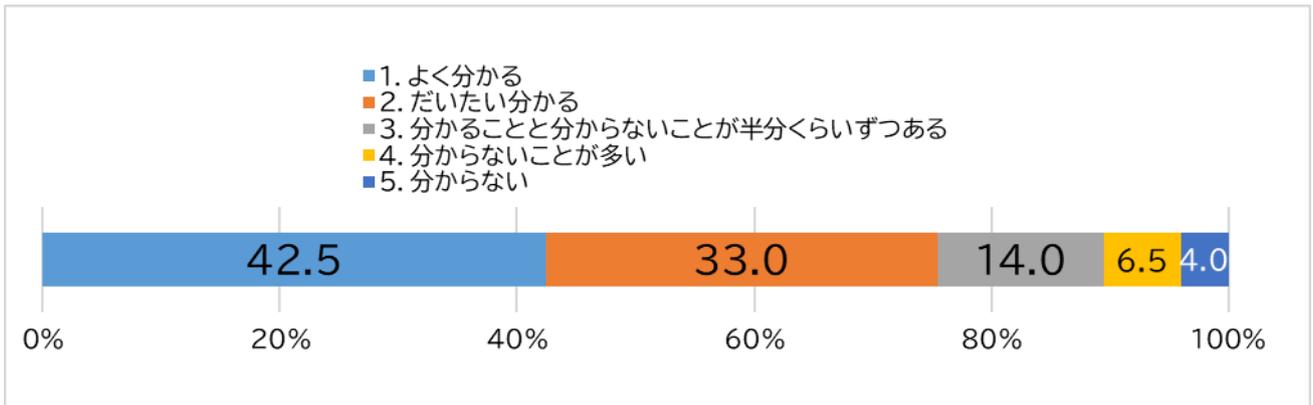
(1) 英語活動の時間は楽しいですか。

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
1年生	85	15	4	2
2年生	69	15	7	2
合計	154	30	11	4

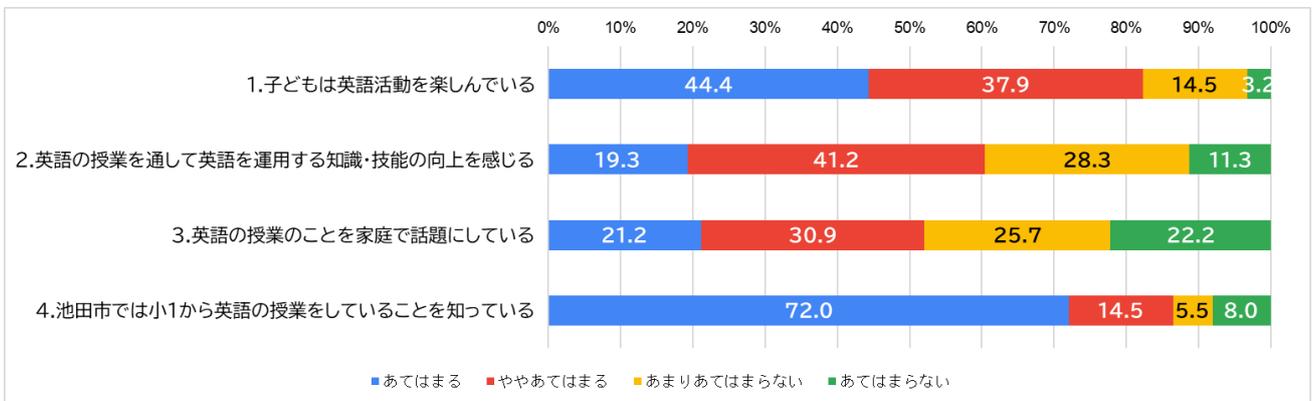


(2) 英語活動の授業はよく分かりますか。

	よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半分くらいずつ	分からないことが多い	分からない
1年生	53	31	11	8	3
2年生	32	35	17	5	5
合計	85	66	28	13	8



3. 保護者アンケートの結果(令和5年度 学校教育自己診断保護者アンケートより)



4. 学校関係者からの意見

- ・ 英語が不可欠な時代になっていくと思うので、英語のアウトプットできる環境を積極的にどんどん取り入れていく必要がある。
- ・ 低学年の頃から「慣れ親しむ」ということは、それ以降につながる大切な経験につながると思う。

5. 今後に向けて

「1. 英語活動の時間は楽しいですか」に対して昨年度に引き続き約90%の児童が肯定的な回答をしています。特に強い肯定「あてはまる」を選択した児童が 77.4%でしたが、昨年度と比較すると減少が見られました。低学年の児童が英語のリズムや音に慣れ親しめるような歌やゲームを引き続き取り入れていきます。

「2. 英語活動の授業はよくわかりますか」の問いに対して「よくわかる」「だいたいわかる」という回答が75.5%でした。この数値は一昨年度65.1%、昨年度72.4%と順調に推移しています。この調子で「英語がわかる授業」を継続していきます。

低学年からの英語活動により、英語に慣れ親しむという点では効果が出ているように感じています。3、4年生の外国語活動、5、6年生の英語につながるよう、引き続き児童の興味関心を高められる授業を展開していきます。